

令和3年4月(2021年) No.664

## 宮中歌会始の儀・来年の課題にちなんで

### 今年の課題コンテストのテーマは「窓」です

例年ですと毎年1月15日に行われている宮中歌会始は、今年はコロナ禍のせいで延期されていたが、ようやく3月26日に行われたようです。それによると来年の課題は「窓」だそうです。

大阪ムービーサークルでは、毎年宮中歌会始で発表される来年の課題をテーマにして、映像コンテストを実施してきました。これが好評で毎年多くの方が作品を作ってコンテストに参加されています。

映像作品を制作するにあたって、さて何を撮ろうか、よいテーマ無いかと迷うものですが、皆共通のテーマが与えられると、目標が出てきて制作意欲も湧いてくるものです。テーマは同じでも各々違う作品が揃って見えて、成程こういう見方もあったかと刺激も受けます。

さて、「窓」という字が入った題名をつけるとなると、平凡な単語だけにテーマの具体化するには難しいテーマかも知れません。

- ・窓から眺める風景という仮定で考えてみるのもいいかも。
- ・窓辺さん、という人物に焦点を当ててみたら。
- ・窓に反映する外の風景で抽象映画に挑戦してみたら。
- ・飛行機の窓から眼下に広がる雄大な風景に感動した経験はないか。
- ・スタンドガラスの美しい窓を夢中で撮った映像から物語を発展。
- ・「窓明り」「窓口」「窓の雪」「窓ガラス」「窓辺」「窓際」等の単語が広辞苑に出ていました。ご参考までに。

■課題コンテストは7月第2例会15日(木)とします。皆さん頑張って挑戦してください。

## 4月例会のお知らせ

■通常例会；第4土曜日24日18時より、難波市民学習センター於

大阪府に、コロナ感染者急増のため緊急事態宣言に準じる「まん延防止等重点措置」が適用されることになりました。そのため、学習センター終了時刻が20時までとなりました。

当日は、日中の空き部屋がないため予定通り24日土曜日18時から20時までの開催とします。お繰り合わせの上、参加下さい。

月一回例会です、大いに楽しみましょう。お待ちしております。

## 日本縦断発表会

### 予約制で90名に絞ったが・・・実際の参加者71名

去る3月28日(日)大阪市立中央図書館で開催された第39回日本を縦断する映像発表会は例年ですと200名ほどの来場者があるが、このコロナ禍のもと、図書館側より90名の入場制限を申し渡され、止む無く予約制で90名に絞るべく抽選制とした。

コロナ禍のもと110名の参加希望者があり、抽選にて90名の方に参加証を発行、残りの方には「残念ながらご希望には添えず申し訳ありません」との通知はがきを出すなど事前対策を取っていた。

開催日は朝から本曇り、午後から雨が降り出すというお天気模様だった。

12時15分開場、会場では体温測定、手指の消毒、参加証の受付、連絡先電話番号の記入漏れの有無確認等、従来無かった対応が共催の中央図書館側との共同作業で施行された。

結果的に入場者は71名止まりであった、事前に行けなくなったと連絡のあった方や、当日朝になって家族に急病で行けない等の電話があった人もいたが、このコロナ禍のもと、会場に行くはずの90名の予約者のうち実際には71名だったというのは35%減になるが、今後の参考にはなるだろう。平時なら10%位の辞退者を見れば充分だろうが、この様な感染症蔓延下では倍以上の欠席者があり得ることを見越しておく必要がある。大変勉強になった。

プログラム作品の評価は高く、今回の作品は一番粒がそろっていて良かったと、来場者の声を頂きほっとしているところである。



### <コラム>

#### 例会後の二次会に異変

例会は例会で楽しいが、いつも終わってから喫茶店(一部のグループは居酒屋)で仲間とコーヒーを飲みながらの雑談会が又楽しいものである。

昼間開催の第2例会は帰りが夕方なのでいつもの喫茶店(このところコロナのせいか10名位は座れる空いた店がある)に集っておしゃべりに楽しいひと時を過ごしている、こういう場では本音が聞けて親密さも増すものである。最もコロナ禍のもとマスクは欠かせないがそれも日常化してしまった。

一方、夜の例会となると第4土曜日の例会は終わるのが9時頃になるので、地下街の喫茶店に入るのは9時過ぎになってしまう。いつもなら10時の閉店まで1時間ぐらいおしゃべりを楽しめたが、コロナ禍が更に進行して店が9時閉店となってしまった。従ってこのところ二次会なしの残念なことになっている。

早くコロナが治まってこないというところにも影響を及ぼすのだ、コロナ以前の普通の生活が恋しい。

### 3月通常例会レポート

3月通常例会は第4土曜日27日18時より難波市民学習センターにて開催。すっかり陽気も暖かとなり、今年例年より早く桜の満開の季節を迎えていた。一方コロナの方は第4波が予想されるなど、又感染者が増えてきたようだ。いつになったらコロナ禍騒ぎが治まるか、気の遠くなるようなうんざり感である。

さて、こういう時期に例会には11名の会員諸氏が集まり作品上映を楽しんだ。

やはり親しい仲間と直接会って会話が出来るという事は楽しい、ただ例会が終わって街に出ると喫茶店など9時で閉店という事で二次会を楽しめないのは甚だ残念ではある。コロナのせいではあるが。

- 運営担当; 司会・進藤、書記・合原、映写・坪井、メモリー記録・江村、受付照明・宮崎、森下の各氏
- 出席者 ; 江村、岡本、紙本、合原、進藤、高瀬、坪井、宮崎、森下、森田、山本の11氏。

上映作品(書記は合原会長)

#### 1. 中山寺 春の訪れ

進藤信男

BD

12分50秒

(作者コメント) コロナ回避の毎日、季節の移り変わりも忘れがちになる。外出自粛要請の市の広報車の声を聴きながら、宝塚市にある中山寺を訪ねた。

例年なら、タカラジェンヌも参加して賑わう節分会も、人出は少なく警備の警察官たちも手持無沙汰のようだ。最初に出会ったのは、小さな子供を抱いて安産のお礼詣でをしている家族連れだった。

建物の改装も終え、新しくなった境内を歩き、自分たちのこれまでの生活の一コマも思い出しながら寺院のたたずまいに想いを馳せるのだった。

(会長コメント) 故吉岡貞夫氏の中山寺節分会の作品が思い出される。タカラズカの美女たちが舞台上から豆まきする姿を近くから存分に撮影されていて記憶に残っている。

進藤作品は季節感のあるタイトルを付けておられるが全体の3分の2は中山寺全体と各建物について丁寧に描かれていて、今年のコロナ禍での節分会の場面は後半に出てきてようやくタイトルにマッチした構成となっている。配分から云って作品のイメージが分散してしまっているのは惜しい気がする。1日だけの撮影でこれだけ多くのカットを撮られたのは石段を上がったり下がったり相当動き回られたのではないかと、ご苦労様でした。

## 2. 河内音頭。華の幡随院 BD 14分40秒 岡本至弘

(作者コメント) 3月7日(日)東大阪文化芸術祭に出演した舞台出演映像です。作者は出演の為、撮影協力していただきました。

2カメラでの撮影に挑戦しましたが、固定カメラの位置が悪く使えませんでした。

(会長コメント) 作者自身が舞台上で踊っている状況で撮影は一人のカメラマンに依頼して作った作品という事でやはり無理がある。

舞台撮影は2カメラか3カメラは必要で、顔の表情が分かるアップなどインサートカットとして入れないと作品にはなり得ない。単なる記録としてなら関係者にとっては記念となる映像にはなるであろう。

## 3. パプアの密林(もり)で BD 14分00秒 合原一夫

(作者コメント) パプアニューギニアは、かつて戦わずして日本軍が飢えとマラリアにやられて多数犠牲になった島である。

観光客があまり行かない、こうした島の現状は今どうなっているかに関心を持ち訪ねてみた。

現地の素朴な踊りや生活ぶりに触れて他に無い魅力を持った島だと感じ入った。

2007年(平成19年)撮影

## 4. 巨木色々 その2 BD 9分40秒 紙本 勝

(作者コメント) 大阪府下の巨木と言っても、自然の木の数と比べると僅かになります。巨木は、地上から1.3mの位置の幹回りが、3m以上と定義されています。大きく繁った木でも巨木にはなかなか当てはまらないわけです。

(会長コメント) 大阪府下の巨木を訪ね歩いて撮影を続けておられる「巨木紀行#6 巨木色々 その2」。地上から1.3mの位置の幹回りが3m以上を巨木という事を初めて伺ったが、結構あちこちに存在するものである。何百年もの古い巨木はさすが貫禄がある。

そして、こういう紀行ものを撮影し続けておられる紙本さんもまた貫禄十分な御方で敬意を表したい。

## 5. 小金門島 BD 6分50秒 山本正夢

(作者コメント) 以前、金門島を編集しましたが、小金門島も同じ様な風景で面白さに欠けませんが編集しました。





(会長コメント) 台湾の金門島の映像は依然拝見したことがあり覚えているが、今回の作品は、金門島近くにある小金門島への旅の映像である。この島の防衛に成功したから今の台湾の現状があるとの字幕での説明があった。成程、戦争の跡が今も残る島の様子で納得するものがあった。

6. さくら咲く BD  
坪井仁志 2分40秒

(作者コメント) 旧作になります、住んでいるマンションの中庭に咲く桜をメインに8年位前の映像も編集に入れました。現在はもうこんな桜吹雪を見ることはできません。

(会長コメント) 桜の花に絞った超短編。満開の桜から散りゆく桜へと展開。花びらがひらひらと落ちる“花吹雪”は印象的。日本らしい風景と云える。



7. 京都龍馬よさこい パート2 BD  
江村一郎 7分50秒

(作者コメント) 2014年制作「京都龍馬よさこい」からの第2弾です。今回導入部分の30秒は京都四条河原町で今月撮影しました。

坂本龍馬が暗殺された11月15日の前後に開催される京都龍馬よさこい。前作では舞台でなく三条会商店街を練り踊るのがメインだったが、今回は陵墓のある霊山護国寺神社を舞台とした演舞がメインとなっています。

(会長コメント) 導入部分の街を歩く人が皆マスク姿なので、最近撮られたカットと判りましたが祭り本番はノーマスク。コロナ以前に撮られていたカットだとか。どこのよさこいも踊りがきびきびして見ていて楽しい。コロナの今、考えると祭りの楽しさは格別。早く元に戻ってほしいものである。



8. 令和3年3月桜めぐり BD  
高瀬辰雄 6分15秒

(作者コメント) 大津・皇子が丘公園の初御代桜は早咲きで、3月中旬、満開でした。京都上京区の本満寺のしだれ桜は3月24日、満開。25日、六角堂のしだれ桜も満開。今年は桜の開花が早いようです。人の少ない桜の名所を選んで撮影しました。

(会長コメント) 桜は毎年変わらず美しい。まさに日本の風景である。作者の今度の作品“令和3年3月桜”とわざわざ「令和3年」と強調されているので、内容も令和3年の現在というのを例年の桜と比べてもっと強調した方がよかったのではないかな。後の方にマスクの落ちかかった地藏さんのカットがあったが、これなどコロナ禍以前には見られなかった光景で良かった。こういうイメージ的なカットが最初から入っていてもよかったのではないかな。マスク姿のグループが桜を見上げているカットも入れた方が如何にもコロナ禍時代の花見という印象が出たのではないかな、と考えるがどうだろうか。



※

### ZOOM ミーティング時の勉強会

作品の中に入れるナレーションの方法についての勉強会の様子が録画再生で進藤氏より披露された。ZOOMではこういう活用の仕方もあるという事例である。



## 3月 第二例会レポート

- 運営担当：司会 進藤、書記 高瀬、映写 中川、メモリー記録 江村、受付 照明 森下、宮崎の各氏
- 出席者：植村、江村、岡本、上総、紙本、合原、柴辻、進藤、高瀬、中川、中村、宮崎、森下、山本の14氏 堀氏は作品のみ

上映作品（書記は高瀬氏）

1. 安来節どじょうすくい踊り BD  
岡本至弘 5分50秒

(作者コメント) 昨年の12月に東大阪市老人クラブ連合会主催の「演芸大会」に出演された、ある団体

の演舞の撮影を依頼されて撮影したものです。一昨年にオープンした1500人収容の文化会館での催しで、一カメラでの舞台撮影の試しでもありました。最後方からの撮影で、倍率20倍で上半身アップがいっぱいでしたが、まずまずの撮影でした。演舞の方は、笑いをさそう内容だったので、なんとか作品にすることができました。

(書記コメント) 大きな舞台での多人数の踊りの撮影は私も経験がありますが、なかなか大変です。1台のカメラで笑いを誘うカットなど、よく追われている。

## 2. 都会のメルヘン

BD

柴辻英一

8分00秒

(書記コメント)

堺市の市庁舎前広場に菜の花が咲き誇っている。菜の花は三重県から取り寄せて展示、その数4000株で広場を埋め尽くしている。家族連れや若い人たちが立ち寄り、カメラを向けている。まさに都会の心温まるメルヘンの世界。ガーデナーや市の担当者のインタビュー、楽器演奏などを交えてまとめられ、カメラワーク、インタビュー録音、構成など、学ぶところも多い作品。



## 3. 大阪城梅林

BD

江村一郎

6分20秒

(作者コメント) 去年の2月に一目百万の南部梅林に行くも暖冬で時期を逸する。ならばと大阪城梅林に行き撮ったものです。まだコロナが深刻にならない時で、外国の人も多く、どこかのんびりしていた。しかし一週間ほど後、学校は臨時休校要請が出た。

(書記コメント) そういえば去年の2月の梅の頃はまだコロナもそれほど深刻な状況でなく、子供たちの無邪気な表情などを梅の映像とからませ、うまく表現されている。



## 4. 巨木色々 その1

BD

紙本 勝

10分43秒

(作者コメント) 巨木といわれる樹種は色々あって、今回は 棕、山桃、桂、イブキです。それぞれに特徴があるのですが、何時もの通り撮影技法が足りず、うまく表現されているか怪しいものと思っています。

(書記コメント)

巨木と真っ向から取り組み、映像化されている姿勢に感銘を覚えます。



## 5. 遙かなる楽園の島

BD

合原一夫

13分20秒

(作者コメント) アフリカ大陸に近く、印度洋に浮かぶ大小115の島からなるセイシェル共和国。もとはフランスの植民地であったが、今は独立してリゾート島として主に欧米人のリゾート客が多い国である。東洋からは飛行機の便が週一便しかないため、訪れる観光客は少ない。シンガポール経由で2日間かけてようやくセイシールの首都ビクトリア市のマヘ島のホテルに到着。そこを基点にあちこち島めぐりを楽しんだ。この作品はそのうちの2つの島めぐりの記録である。セイシェルは自然環境に恵まれ、特に鳥たちの楽園の島であった。撮影は1995年(H7年8月・10日間の旅)

(書記コメント)

鳥たちの楽園とあって、見たこともないような鳥が数多く登場し、興味深く拝見。行ってみたいくなるような旅の映像です。



## 6. 柳谷観音を訪問

BD

中川良三

6分29秒

(作者コメント) 昨年11月に訪れた秋の柳谷観音(楊谷寺)のレポート。京都長岡京にあり、「空海が境内の湧き水を眼病に効く独鈷水(お





こうずい)として広めた」と知られるお寺。境内の各手水には色とりどりの花びらを施してあり、Instagramで評判だとか。今回は境内にある上書院の特別公開で秋の風景は必見とのことで訪れた。

(書記コメント) 上書院の特別公開という良い時期を選んで訪問されている。ただ紅葉の盛りにはやや早いようなのが惜しい。

7. 料理に乾杯 BD  
堀 皓二 8分20秒

(作者コメント) 定年を迎え、時間を持て余し気味の私はある時、料理教室のポスターを見て、通い始める。部門グランプリの賞金10万円で腕時計を買ったのが懐かしい思い出です。約20年前のビデオサロンコンテストでした。生まれて初めて入賞した時の喜びは格別でした。

(書記コメント) コンテストの入賞作品だけあって、ほのぼのとした映像で作者の人柄が滲み出ているような作品。

8. インド西海岸の旅 BD  
山本正夢 8分10秒

(作者コメント) 昔インドを旅行した時に映した沢山のフィルムがあり、コロナで自宅に居る時間が多くなり、これを機会に編集しました。

(書記コメント) 観光旅行では見られない現地の人々の生き生きとした生活の様子を描かれている。ドービー・ガード(洗濯場)の風景が印象的。

9. 縁日の須磨寺 DVD  
宮崎紀代子 6分00秒

(作者コメント) 須磨寺の広い境内は多くの塔頭があります。普段は参詣の人は見当たらず、撮影を後日、2月20日の縁日に再訪し、やっと編集にこぎつけた。なんの変哲のない縁日風景ですが、多勢の参詣者の観音信仰の篤さを感じた。

(書記コメント) 観音信仰の篤さを何の変哲もない淡々とした縁日の風景の中に見出された好感のもてる作品。

10. 2020年わが家の改築 BD  
上総秀隆 18分30秒

(作者コメント) 親の代から52年使い続けてきた台所を改築しました。

(書記コメント) ご自身の家の改築の様子を丹念に描かれている。ただ、もう少し時間を縮め、なぜ改築するのかといったストーリー性を持たせた方が良いのでは…などの意見が聞かれた。

11. 月ヶ瀬梅溪 BD  
高瀬辰雄 6分50秒

(作者コメント) 奈良県の月ヶ瀬を訪れたのは初めてです。五月川を挟んで1万本の梅が植えられているということで、その壮観な景色をと撮影に取り組みましたが、梅林が広く、この日は半分、あるいは3分の1くらいしか写して回れませんでした。

12. 音量調整の実際 BD  
進藤信男 22分

3月6日に行われた、ビデオ作品作りにおける音量調整やナレーションの録音などをテーマにしたZOOMミーティングの記録。

